

「人口の推移」、「インフラの老朽化」、「地球温暖化及び技術の進展状況」の観点から、6つの課題を抽出した。

社会情勢

- ① 人口減少と高齢化
- ② インフラの老齢化と更新時代
- ③ 自然災害リスクの増加と防災への取組
- ④ 第1次産業の6次産業化
- ⑤ 気候変動がもたらす自然環境の変化
- ⑥ ICT技術の成熟と低炭素社会化

## 《2050年インフラ整備のあり方》

2050年の社会情勢をふまえて、そのとき必要とされるインフラ整備について以下による5つの提言を行うとともに、2050年に実現している東北のすがたについてとりまとめた。

1

### 高度化された土木技術の活用による交流促進

- 人工知能(AI)技術の成熟による土木の魅力向上
- 施工技術の進化による交通ネットワーク整備の推進
- 新たな交通システム整備による交流促進



2

### 防災に関するソフト・ハード・経験の世界展開



大震災の経緯を世界に発信→

3

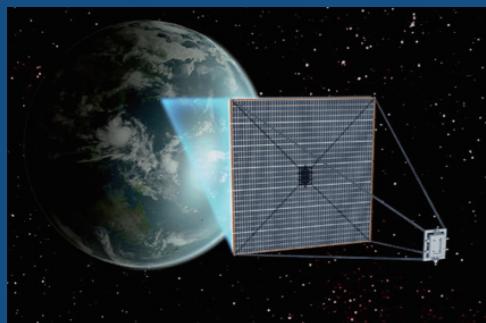
### “モノを壊す”から“モノを使う”インフラのリサイクル

- インフラのリサイクル技術向上による維持管理コストの低減
- インフラのリファービッシュ

4

### 広大な農地を用いた研究拠点やエネルギー供給基地の整備

- 生産から研究へ
- 日本のエネルギー供給基地
- 氷雪エネルギーを利用した大規模食料基地



宇宙太陽の概念図

5

### 東北らしい都市空間整備とグリーンインフラ整備

- ・東北らしいグリーンインフラ整備
- ・若い世代を定着させる



### 2050年東北のすがた



# TOHOKU 復興から創生そして近未来への提言

一般社団法人建設コンサルタント協会東北支部では、東北地方の自立的な発展を目指して、「TOHOKU復興から創生そして近未来への提言」を策定しました。この提言は、地域経済の活性化や、安全・安心な社会の実現のために必要とされる高品質なインフラの整備の必要性について取り纏めたものです。作業にあたっては、建設分野に限ることなく、農林水産業、経済・産業、環境等の多方面の分野を包括的に含んだ内容を取り扱いました。

この提言は、2030年度末を目標年度とする【第一部 創生編】と2050年度末以降を目標年度とする【第二部 近未来編】の2部構成としています。

### 第一部 創生編

- 15の目標
- 10のインフラ事業
- 40のプロジェクト

2030

### 第二部 近未来編

- 社会情勢と課題
- インフラ整備のあり方

2050